

第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

株式会社フュートレック

(E05535)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
(1) 【株式の総数等】	5
① 【株式の総数】	5
② 【発行済株式】	5
(2) 【新株予約権等の状況】	5
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	5
(4) 【ライツプランの内容】	5
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	5
(6) 【大株主の状況】	5
(7) 【議決権の状況】	6
① 【発行済株式】	6
② 【自己株式等】	6
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期連結財務諸表】	9
(1) 【四半期連結貸借対照表】	9
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
【四半期連結損益計算書】	10
【第1四半期連結累計期間】	10
【四半期連結包括利益計算書】	11
【第1四半期連結累計期間】	11
【注記事項】	12
【セグメント情報】	13
2 【その他】	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第14期第1四半期（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社フュートレック
【英訳名】	FueTrek Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤木 英幸
【本店の所在の場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 嶋田 和子
【最寄りの連絡場所】	大阪市淀川区西中島六丁目1番1号
【電話番号】	06-4806-3112（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 嶋田 和子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第1四半期連結 累計期間	第14期 第1四半期連結 累計期間	第13期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高（千円）	1,291,980	419,827	3,165,953
経常利益又は経常損失（△） （千円）	650,142	△34,659	901,520
四半期（当期）純利益又は四半期純損失（△）（千円）	327,761	△30,264	491,191
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	385,600	△41,857	622,346
純資産額（千円）	3,107,793	3,168,402	3,359,611
総資産額（千円）	3,891,449	3,383,664	3,834,855
1株当たり四半期（当期）純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額 （△）（円）	35.19	△3.25	52.74
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	52.65
自己資本比率（％）	77.1	89.7	84.0

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、第13期第1四半期連結累計期間において、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。第14期第1四半期連結累計期間において、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
4. 平成24年10月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新政権の経済政策や金融政策により円安・株高へ転じ、経済政策への期待感もあり、景気回復に向けた動きは見られますが、本格的な回復には至っておりません。一方、世界経済は欧州の財政問題、新興国の成長鈍化等の影響もあり依然として先行きは不透明な状況にあります。

当社グループの主な事業分野である携帯電話業界におきましては、携帯電話の国内出荷台数（4月～5月）はスマートフォンにおいては前年比で増加しましたが、携帯電話全体では前年比で減少しました。

このような環境のなか、当社グループは音声認識事業を柱に4月組織改編を行い事業部制を導入することで、市場別の顧客ニーズを深掘りしていく体制とし、主な事業分野である携帯電話業界から他の業界へ事業の拡大に取り組みました。カーナビ業界、家電業界及び教育現場等で当社グループの音声認識技術が採用されましたが、音声認識市場の拡がり並びに音声認識技術を搭載した商品の拡がりとは十分なものではありません。

当社グループの当第1四半期連結累計期間における業績としましては、売上高は419,827千円（前年同四半期比67.5%減）、営業損失は39,386千円（前年同四半期は営業利益647,568千円）、経常損失は34,659千円（前年同四半期は経常利益650,142千円）、四半期純損失は30,264千円（前年同四半期は四半期純利益327,761千円）となりました。

セグメントごとの当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、次のとおりであります。

セグメントの名称	第13期 第1四半期連結累計期間 (千円)	第14期 第1四半期連結累計期間 (千円)	増減 (千円)
ライセンス	1,250,987	378,208	△872,778
音声認識・UIソリューション	1,119,770	258,993	△860,777
音源	43,260	60,974	17,714
CRMソリューション	87,956	58,240	△29,715
ライセンス以外	40,992	41,619	626
基盤	14,578	13,243	△1,334
カード	26,414	28,375	1,960
売上高合計	1,291,980	419,827	△872,152

① ライセンス（音声認識・UIソリューション事業分野、音源事業分野、CRMソリューション事業分野）

売上高は378,208千円（前年同四半期比69.8%減）となりました。

音声認識・UIソリューション事業分野の売上高は258,993千円（同76.9%減）となりました。前第1四半期連結累計期間と比較し、ランニングロイヤルティによる収入は増加しましたが、前第1四半期連結累計期間の売上に大きく寄与した株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモに提供いたしました「しゃべってコンシェル®」関連のカスタマイズ業務による収入が減少したことから、売上高は前第1四半期連結累計期間と比較し、減少となりました。

音源事業分野の売上高は60,974千円（同40.9%増）となりました。株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモとの音源IPライセンス契約に基づくロイヤルティ収入は、フィーチャーフォンの減少により国内市場における音源搭載台数が減少傾向となっておりますが、前第1四半期連結累計期間と比較し、増加となりました。

CRMソリューション事業分野の売上高は58,240千円（同33.8%減）となりました。前第1四半期連結累計期間と比較しCRM製品の売上及び受託開発の売上が減少したことから減少となりました。

② ライセンス以外（基盤事業分野・カード事業分野）

売上高は41,619千円（前年同四半期比1.5%増）となりました。

基盤事業分野の売上高は13,243千円（同9.2%減）となりました。カスタマイズ業務による収入が減少したこと
から前第1四半期連結累計期間と比較し、減少となりました。

カード事業分野の売上高は28,375千円（同7.4%増）となりました。英語リスニング模擬試験用メモリーカード
の書込みによる収入が増加したことから前第1四半期連結累計期間と比較し、増加となりました。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（3）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は66,306千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

（4）生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、ライセンスにおける音声認識・UIソリューション事業分野の販売実績が
著しく減少いたしました。その内容については「（1）業績の状況」に記載のとおりであります。

（5）経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と
見通しについて重要な変更はありません。

（6）資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資金の状況

当第1四半期連結累計期間における資金の期末残高は、買掛金の支払、未払法人税等の支払、配当金の支払（少
数株主への配当金を含む）等により前連結会計年度末に比べて164,208千円減少し2,159,023千円となりました。

② 資金需要

当社グループの運転資金需要の主なもの、売掛金、買掛金の回転期間差異に基づく運転資金及び研究開発資金
であります。

③ 財政政策

当社グループの運転資金につきましては、自己資金で対応することを原則としております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	31,744,000
計	31,744,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数（株） （平成25年6月30日）	提出日現在発行数（株） （平成25年8月9日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,459,200	9,459,200	東京証券取引所 （マザーズ）	単元株式数 100株
計	9,459,200	9,459,200	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 （株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増減額 （千円）	資本準備金残高 （千円）
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	—	9,459,200	—	716,570	—	914,795

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 146,400	—	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,311,600	93,116	単元株式数 100株
単元未満株式	普通株式 1,200	—	—
発行済株式総数	9,459,200	—	—
総株主の議決権	—	93,116	—

② 【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
株式会社フュートレック	大阪市淀川区西中島 六丁目1番1号	146,400	—	146,400	1.55
計	—	146,400	—	146,400	1.55

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、前事業年度の有価証券報告書に記載した事項を除き、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

なお、平成25年7月5日付での役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	管理部長	木道 嘉之	平成25年7月5日

(2) 役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	テレマティクス&ホーム アプライアンス 事業部長 兼 管理部長	取締役	テレマティクス&ホーム アプライアンス 事業部長	嶋田 和子	平成25年7月5日

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成25年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,023,232	1,959,023
売掛金	567,599	313,222
有価証券	1,300,000	200,000
仕掛品	4,378	25,801
その他	42,620	54,781
貸倒引当金	△2,247	△1,050
流動資産合計	2,935,582	2,551,778
固定資産		
有形固定資産	104,590	98,281
無形固定資産		
のれん	182,313	175,706
その他	205,469	195,207
無形固定資産合計	387,783	370,913
投資その他の資産	406,898	362,690
固定資産合計	899,272	831,885
資産合計	3,834,855	3,383,664
負債の部		
流動負債		
買掛金	89,199	29,777
未払法人税等	172,218	317
賞与引当金	10,579	5,753
その他	167,417	151,067
流動負債合計	439,415	186,916
固定負債		
その他	35,828	28,345
固定負債合計	35,828	28,345
負債合計	475,244	215,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	716,570	716,570
資本剰余金	914,795	914,795
利益剰余金	1,586,289	1,411,676
自己株式	△69,963	△69,963
株主資本合計	3,147,690	2,973,077
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	74,834	60,961
その他の包括利益累計額合計	74,834	60,961
新株予約権	17,861	21,122
少数株主持分	119,224	113,241
純資産合計	3,359,611	3,168,402
負債純資産合計	3,834,855	3,383,664

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	1,291,980	419,827
売上原価	334,186	155,846
売上総利益	957,793	263,981
販売費及び一般管理費	310,224	303,367
営業利益又は営業損失(△)	647,568	△39,386
営業外収益		
受取利息	708	789
受取配当金	2,204	3,274
その他	340	663
営業外収益合計	3,253	4,727
営業外費用		
支払利息	679	0
営業外費用合計	679	0
経常利益又は経常損失(△)	650,142	△34,659
特別利益		
投資有価証券売却益	—	18,772
特別利益合計	—	18,772
特別損失		
投資有価証券評価損	49,847	—
特別損失合計	49,847	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	600,295	△15,886
法人税、住民税及び事業税	243,688	1,238
法人税等調整額	△3,591	10,860
法人税等合計	240,097	12,098
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	360,197	△27,985
少数株主利益	32,436	2,279
四半期純利益又は四半期純損失(△)	327,761	△30,264

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	360,197	△27,985
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	25,402	△13,872
その他の包括利益合計	25,402	△13,872
四半期包括利益	385,600	△41,857
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	353,163	△44,137
少数株主に係る四半期包括利益	32,436	2,279

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
減価償却費	36,664千円	33,794千円
のれんの償却額	6,559千円	6,607千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	97,784	利益剰余金	2,100	平成24年3月31日	平成24年6月25日

II 当第1四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	144,348	利益剰余金	15.50	平成25年3月31日	平成25年6月24日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ライセンス	ライセンス以外	調整額（注1）	合計（注2）
売上高				
外部顧客への売上高	1,250,987	40,992	—	1,291,980
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,300	△1,300	—
計	1,250,987	42,292	△1,300	1,291,980
セグメント利益又は損失（△）	662,542	△16,274	1,300	647,568

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ライセンス	ライセンス以外	調整額（注1）	合計（注2）
売上高				
外部顧客への売上高	378,208	41,619	—	419,827
セグメント間の内部売上高又は振替高	818	1,300	△2,118	—
計	379,027	42,919	△2,118	419,827
セグメント利益又は損失（△）	△36,076	△5,428	2,118	△39,386

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	35円19銭	△3円25銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△) (千円)	327,761	△30,264
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	327,761	△30,264
普通株式の期中平均株式数(株)	9,312,800	9,312,800
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

- (注) 1. 平成24年10月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第1四半期連結累計期間において、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 6 日

株式会社 フュートレック

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士

井上 嘉之

指定有限責任社員
業 務 執 行 社 員

公認会計士

目細 実

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フュートレックの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フュートレック及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。